

主体的・対話的で深い学びの実現

深い学びが実現できているか

たとえば、**習得と活用を位置付けるなど学習プロセスを工夫したのに**、
次のような子どもの姿を目にすることはないか、**振り返って**みましょう。



ある
 子どもから「なぜ」「どうして」の声が聞こえてこない。



個別的・事実的な知識しか身に付いておらず、活用できない。

こんな姿も

この姿が生まれる理由を「**子どもの視点**」から**掘り下げて**みましょう。

子ども自身が試行錯誤できるような学習プロセスになっていたでしょうか？

他者への説明やアウトプットが不足し、知識が繋がっていないのでは？

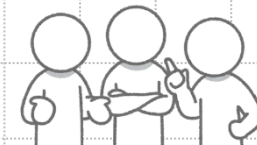
こんな理由も

「**子どもの視点**」に立って、自分の実践を**見直して**みましょう。

[Blank area for reflection]

「**子どもの視点**」に立って見直した内容を**交流して**みましょう。

メモ



【参考】「深い学び」の視点

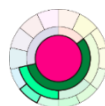
習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

(文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」平成29年6月)

試みたいこと

「深い学びが実現できているか」という着眼点で「**子どもの視点**」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

(研修実施日 年 月 日 氏名)



長野県教員育成指標との関連

「深い学びが実現できているか」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の〈学習指導〉⑧〈指導方法〉Doに関連しています。